

シャルロット・ペリアンと日本 Charlotte Perriand et le Japon—Résonances

2011年10月22日(土)－2012年1月9日(月・祝)

神奈川県立近代美術館 鎌倉

〒248-0005 神奈川県鎌倉市雪ノ下2-1-53 (鶴岡八幡宮境内)
Tel. 0467-22-5000 Fax. 0467-23-2464

開館時間：午前9時30分～午後5時 (入館は午後4時30分まで)

休館日：月曜日 (1月9日は開館)、

12月29日(木)－1月3日(火)

観覧料：一般900円(800円)、20歳未満・学生750円(650円)、
65歳以上450円、高校生100円

※()内は20名以上の団体料金です。

※中学生以下、障害者手帳をお持ちの方は無料です。

※ファミリー・コミュニケーションの日：

毎月第1日曜日(今回は11月6日、12月4日)は、18歳未満のお子様連れのご家族は、優待料金(65歳以上の方を除く)でご観覧いただけます。

主催：神奈川県立近代美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会

協賛：ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン、日本テレビ放送網

後援：フランス大使館、日仏工業技術会、日仏美術学会、日本建築学会、

日本建築家協会、日本インテリア学会

特別協力：Archives Charlotte Perriand, Paris

協力：エールフランス航空、CASSINA IXC. Ltd.



All Rights Reserved, Copyright ©Archives Charlotte Perriand – ADAGP, Paris & SPDA, Tokyo, 2011



シャルロット・ペリアン《オンブル(影)》1954年 Photo: Shizuka Suzuki

20世紀の建築とデザインに画期的な刺激をもたらしたシャルロット・ペリアン(1903-1999)は、巨匠ル・コルビュジエとその従兄ピエール・ジャンヌレとの共同作業を経て、建築とインテリアに数々の優れた作品を残したフランスの女性デザイナーです。1940年の初来日以降、たびたび日本を訪れたペリアンは、日本を愛し、また多くの日本人に愛されてきました。今回の展覧会では、戦前戦後を通じて日本のデザイン界に多大な影響を与えたシャルロット・ペリアンと日本の関係に注目しながら、彼女の仕事の今日的意義をさぐります。



シャルロット・ペリアン《竹製シェーズ・ロング》1941年/1985年再製作、Cassina

■開館60周年記念 無料開館日：11月17日(木)

この日は、神奈川県立近代美術館で開催中の3つの展覧会を無料でご観覧いただけます。

■担当学芸員によるギャラリートーク

11月12日(土)、12月17日(土) 午後2時から

申込不要、無料(ただし「シャルロット・ペリアンと日本」展の観覧券が必要です)

■先生のための特別鑑賞の時間：10月29日(土) 要申込、無料(詳細はHPで)

<展覧会概要>

シャルロット・ペリアンは、1927年のサロン・ドートンヌに出品した「屋根裏のバー」が認められ、ル・コルビュジエのアトリエに入所しました。そこでル・コルビュジエとピエール・ジャンヌレとともに手掛けた鉄やアルミニウム、あるいはガラスといった新しい素材を用いた内装は、「住宅インテリア設備」として、住宅に新しい概念をもたらしました。1940年にペリアンは、かつてル・コルビュジエのアトリエで同僚だった坂倉準三や柳宗理の推薦によって、商工省の「輸出工芸指導顧問」として初来日します。海外向けの工芸品の改良・指導を任せられたペリアンは、柳宗理とともに日本全国をまわり、仙台の工芸指導所では若い研究員たちに、素材の扱いやデザイン手法など、ヨーロッパのモダン・デザインの実際を示しました。

日本滞在中に「民藝」運動の推進者である柳宗悦や河井寛次郎らと交友したペリアンは、「民藝」の理念に触れ、また地方に残る伝統的な意匠や素材、技術を同時代の感覚と結びつける試みをしました。1941年の「ペリアン女史 日本創作品展覧会 2601年住宅内部設備への示唆」(通称「選擇、傳統、創造展」)で発表した《竹製シェーズ・ロング》はそのひとつです。このほかに、彼女が提案した竹や木を素材とした合理的かつ現代的なデザインは、当時の日本のデザイン界に強く深い示唆を与えました。それは戦後のデザインにも鮮明な流れとなって残り、今なお絶えず更新されながら脈々とつづいています。

1953年に再び日本を訪れたペリアンは、東京で「芸術の総合への提案—コルビュジエ、レジェ、ペリアン3人展」(1955年)を開催。文楽から着想した椅子《オンブル(影)》をはじめ、違い棚をヒントにした書架《雲》など、戦前の自身の日本体験をデザインに生かした数々の名作を生み出し、高い評価を得ています。

5つの章で構成される本展では、家具、インテリアに関する図面、写真資料のほか、シャルロット・ペリアンが撮影した写真、交友のあった日本人々とのあいだの書簡など約500点を紹介します。ペリアンと日本人との間の感性の共鳴とその波及をたどりつつ、21世紀の建築やデザインを考える機会となれば幸いです。

■お問い合わせ先

神奈川県立近代美術館 鎌倉
〒248-0005 神奈川県鎌倉市雪ノ下2-1-53
tel. 0467-22-5000 / fax. 0467-23-2464
広報担当：山内、長島 展覧会担当：長門、土居

■美術館についての最新情報は、

ホームページでもご覧いただけます。

<http://www.moma.pref.kanagawa.jp>

モバイルサイトはこちら→



第一章 日本との出会い 1929-1940

1903年にパリで生まれたシャルロット・ペリアンは、1927年にサロン・ドートヌヌに出品した『屋根裏のバー』が認められ、ル・コルビュジエのアトリエに入所。ル・コルビュジエとその従兄のピエール・ジャンヌシとの共同作業によって優れた作品を生み出します。また、ル・コルビュジエに師事して渡仏した日本の建築家前川國男、坂倉準三とも出会います。1940年、日本の商工省から「輸出工芸指導顧問」として招聘された彼女は、坂倉からもらった岡倉覚三〔天心〕著『茶の本』を手に白山丸に乗船し日本へ出発。それはナチスドイツによるパリ陥落の翌日でした。この章では、ル・コルビュジエのアトリエでの前川、坂倉との出会いから来日までの経緯を紹介します。

第二章 日本発見 1940-1946

この章では竹製のシェーズ・ロング(長椅子)を軸に、日本で伝統的に用いられてきた素材、竹との出会いに着目しながら、「選擇・傳統・創造展」の一部を再現的に展示。また民藝運動の中心人物であった柳宗悦や河井寛次郎など日本の美術界との交流、日本の民俗学研究との関係、仙台の工芸指導所や山形の雪害試験所での活動なども視野に入れ、ペリアンの行動をいくつかの視点から見ていきます。

第三章 戦後—日本との再会 1949-1960

この章では椅子「オンブル」を戦後期の日本での活動の象徴とし、日本の伝統的な要素を採り入れつつ清新な感覚でデザインしたペリアンの組立式の「書棚」やル・コルビュジエのタビスリーなどを展示。東京で開催された「国際デザイン会議」への参加、エールフランスの東京と大阪の支社の内装、丹下健三が設計した旧東京都庁舎の内装、パリの日本大使公邸の内装などを紹介します。神奈川県立近代美術館を設計したかつての同僚坂倉準三や、建築家丹下健三、画家岡本太郎らとの交流に触れながら、ペリアンの活動の日本での更なる展開を探っていきます。

第四章 フランス—暮らしの中の日本 1959-1999

日本から帰ったペリアンは、フランスでの生活の随所に日本で得た知識や経験をとり入れ、それらを作品に展開。特に1957年の「サロン・デ・ザール・メナジェ」では、建築家進来廉設計の「日本家屋」に柳宗理のバタフライツールやイサム・ノグチのあかりとともに、自らの作品をアレンジした「ラ・メゾン・ジャポネーズ」を手掛けます。1993年には、パリのユネスコ庭園内に茶室を作るなど、フランスを中心に海外に向けて日本文化を発信しました。この章ではペリアンが発信した日本を紹介、検証します。

第五章 生活と芸術—ペリアンからのメッセージ

1998年10月、ペリアンの生前最後の展覧会が東京のリビングデザインセンターOZONEで開催されました。この時ペリアンは自身の仕事と生涯を振り返り、娘のペルネット・ペリアン=バルザック氏とともに展覧会の会場構成など積極的に関わります。この章では彼女が唱えた「生きる芸術」をキーワードに、彼女が日本や世界に向けて発信したかったこと、ペリアンの中で西洋と日本がどう結びついていったか、彼女のモダニズム的な感覚のうちで伝統がどう解釈されていったかをさらに広く考察します。



シャルロット・ペリアン、銚子にて 1954年
撮影：ジャック・マルタン

シャルロット・ペリアン（1903-1999）略歴

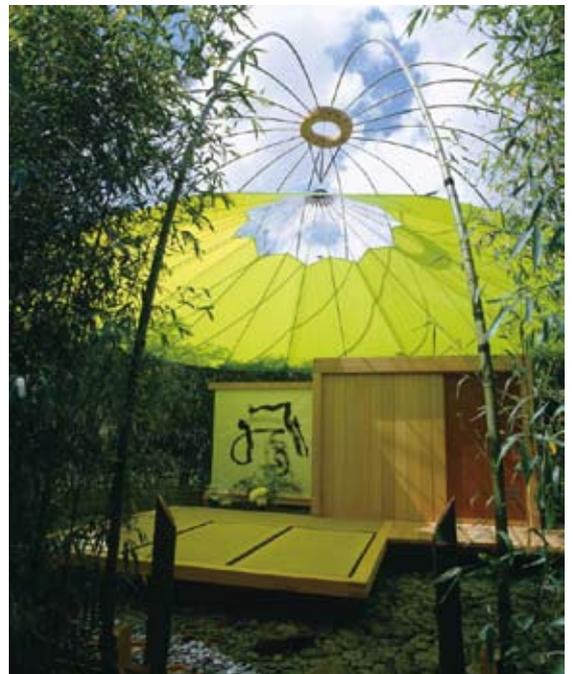
- 1903年 パリに生まれる。
- 1927年 ル・コルビュジエのアトリエに入所（1937年まで）。
- 1940年 商工省の招聘を受け、輸出工芸指導顧問として来日。
- 1941年 東京と大阪の高島屋にて「ペリアン女史 日本創作品展覧会 2601年住宅内部装備への示唆」（通称「選擇・傳統・創造展」）開催。
- 1946年 仏領インドシナを経由して、フランスに帰国。
- 1955年 東京、高島屋にて「芸術の総合への提案—コルビュジエ、レジェ、ペリアン3人展」開催。
- 1985年 パリの装飾美術館にて「シャルロット・ペリアン、生きる芸術」展開催。
- 1996年 ロンドンのデザインミュージアムにて「シャルロット・ペリアン、モダニスト・パイオニア展」開催。
- 1999年 パリにて逝去。



シャルロット・ペリアン「選擇・傳統・創造展」東京高島屋会場 1941年
撮影：フランシス・ハール



「芸術の総合への提案—コルビュジエ、レジェ、ペリアン3人展」会場 1955年



パリ、ユネスコ庭園内のシャルロット・ペリアンの「茶室」 1993年
撮影：ペルネット・ペリアン=バルザック、ジャック・バルザック